

発掘ニュース

平成14年度 [4月](#) [5月](#) [6月](#) [7月](#) [8月](#) [9月](#) [10月](#) [11月](#) [12月](#) [1月](#) [2月](#) 3月

02/05更新

伊勢国府跡の整備

広瀬町字矢下

県道に案内標識を設置するとともに説明版を政庁跡に移設しました。除草作業もあわせて行ったため、ただいま基壇を観察するのにベストな状態です。



伊勢国府政庁基壇



案内標識

伊勢国府跡(長者屋敷遺跡)第16次調査

広瀬町字矢下、西富田町字矢卸

さらに調査区を増やして、地割溝等の確認を目指します。寒風に小雪が舞うなかで3月まで試掘調査は続きます。



調査風景



調査報告書の作成

屋外調査が終了し、博物館では出土遺物の整理作業と発掘調査報告書の作成が進められています。



遺物整理作業



報告書作成

[TOPに戻る](#)

[過去のニュース収蔵庫](#) [現地説明会資料収蔵庫](#)

[ホームページに戻る](#)

発掘ニュース

平成14年度 [4月](#) [5月](#) [6月](#) [7月](#) [8月](#) [9月](#) [10月](#) [11月](#) [12月](#) [1月](#) [2月](#) 3月

01/05更新

伊勢国府跡(長者屋敷遺跡)第16次調査

広瀬町字矢下

新たに、字矢下の史跡指定範囲のすぐ東側で調査を行いました。縄文土器を含むピットと時期不明の溝が検出されました。3月まで調査は続きます。

伊勢国分寺跡28次調査

国分町字堂跡

調査は終了しました。あとは遺構の保護のために山砂を入れて埋め戻します。

現地説明会は12月22日(日)に開催しました。24名の方の参加がありました。現地説明会資料は[こちら](#)(PDFファイル 714KB)

閲覧にはAdobe社のAcrobat Readerが必要です。



現地説明会

天王遺跡第10次調査

岸岡町(鈴鹿厚生病院内)

調査は12月24日の空撮をもって終了しました。工事の関係から調査期間が制限されていたうえ、予想外の冬の雨にたたられたこともあって十分満足の行く調査とは行かなかったのが残念でしたが、弥生時代後期の環濠とそれを再利用した古墳時代後期の溝という大きな発見がありました。

現地説明会を12月22日(日)に開催し45名の参加者がありました。ここでは、9次調査で発見された御厨(みくりや:神宮の荘園)の存在を示す墨書土器のお披露目もなされました。現地説明会資料は[こちら](#)(PDFファイル 419KB)

閲覧にはAdobe社のAcrobat Readerが必要です。



現地説明会



古墳時代の層からまとめて土器が出土



9次調査で出土した墨書土器

[TOPに戻る](#)

[過去のニュース収蔵庫](#) [現地説明会資料収蔵庫](#)

[ホームページに戻る](#)

発掘ニュース

平成14年度 [4月](#) [5月](#) [6月](#) [7月](#) [8月](#) [9月](#) [10月](#) [11月](#) [12月](#) [1月](#) [2月](#) 3月

12/05更新

伊勢国府跡(長者屋敷遺跡)第16次調査

広瀬町字矢下・西富田町字矢卸

引き続きトレンチ調査を継続中です。11月は実測作業がほとんどでした。

伊勢国府跡(長者屋敷遺跡)第17次調査

広瀬町字西野

最終的に底を持つ掘立柱建物が3棟、竪穴住居が4棟見つかりました。年代は国府に平行する8世紀後半と考えています。11月30日に地元対象のささやかな現地説明会を開催して調査は終了しました。

現地説明会資料は[こちら](#)(PDFファイル)

閲覧にはAdobe社のAcrobat Readerが必要です。



現地説明会

伊勢国分寺跡28次調査

国分町字堂跡

現地での作業は調査はほぼ終了しました。広い範囲にトレンチを入れましたが、今回の調査の目玉である塔基壇は確認できませんでした。

現地説明会は12月22日(日) 11:00から開催の予定です。



東員第二中の生徒さんが見学



塔推定地調査区(白線入れ後)

天王遺跡第10次調査

岸岡町(鈴鹿厚生病院内)

先にお伝えしたV字状の大溝は、上層からは古墳時代後期の土器が大量に出土しましたが、最下層まで掘り進めると弥生時代後期の土器のみが出土します。弥生時代後期の環濠を古墳時代後期に再び掘削して利用しているのかもしれませんが。

現地説明会を12月22日(日)午後1:30から開催の予定です。調査は12月下旬まで続きます。



大溝(断面の黒い部分が古墳時代後期の層)



弥生土器高杯の出土

.....
八重垣神社遺跡発掘調査

十宮町 調査主体:三重県埋蔵文化財調査センター

調査は11月いっぱいまで終了しました。遺構は予想外に少なく、古墳時代前期の竪穴住居1棟と溝3条が検出されたとのこと。

[TOPに戻る](#)

[過去のニュース収蔵庫](#) [現地説明会資料収蔵庫](#)

[ホームページに戻る](#)

発掘ニュース

平成14年度 [4月](#) [5月](#) [6月](#) [7月](#) [8月](#) [9月](#) [10月](#) [11月](#) [12月](#) [1月](#) [2月](#) 3月

11/5更新

伊勢国府跡(長者屋敷遺跡)第16次調査

広瀬町字矢下・西富田町字矢卸

調査が続いています。6ALB-B調査区で見つかった古墳の周溝と見られる溝からは6世紀初め頃の須恵器や土師器が出土しました。

その他の地区でも幾つかのトレンチをあけていますが、いまのところめぼしい成果は上がっていません。



古墳周溝



6AKF-A区作業風景

伊勢国府跡(長者屋敷遺跡)第17次調査

広瀬町字西野

一旦中断していた調査が再開しました。新たに広げた調査区からも掘立柱建物・竪穴住居が検出されています。掘立柱建物には片面や両面に庇を持つものがあります。



両面庇掘立柱建物



竪穴住居と掘立柱建物

伊勢国分寺跡28次調査

国分町字堂跡

10月の大部分は遺構の精査と実測作業に追われました。その結果、国分寺跡より遡る時代の遺構として掘立柱建物の倉庫1棟と竪穴住居とみられる方形の土坑が5基ほど見つかりました。

また、中心伽藍の配置を明示するための花畑も見頃となり、多くの方が見学に來られました。



掘立柱建物倉庫



国分寺跡の花畑

天王遺跡第10次調査

岸岡町(鈴鹿厚生病院内)

新たに第10次調査が始まっています。表土除去と遺構検出を平行して進めているような段階ですが、大型の掘立柱建物の柱穴、竪穴住居の痕跡(壁溝)のほか、深さが2mもある古墳時代の大溝も検出されています。



作業風景



大溝

八重垣神社遺跡発掘調査

十宮町 **調査主体:三重県埋蔵文化財調査センター**

新たに調査が始まりました。ほ場整備の水路工事に伴う発掘調査です。調査区は鈴鹿川に近い水田です。



作業風景

[TOPに戻る](#)

[過去のニュース収蔵庫](#) [現地説明会資料収蔵庫](#)

[ホームページに戻る](#)

発掘ニュース

平成14年度 [4月](#) [5月](#) [6月](#) [7月](#) [8月](#) [9月](#) [10月](#) [11月](#) [12月](#) [1月](#) [2月](#) 3月

10/5更新

伊勢国府跡(長者屋敷遺跡)第16次調査

広瀬町字矢下・西富田町字矢卸

さらに各所に調査区を増やしつつ作業を進めています。6ALB-B調査区は15次調査で古墳が見つかった6ALC-D調査区の西側に設けた調査区ですが、新たに古墳の周溝とみられる円形に巡る溝を検出しています。



6ALB-B調査区(奥に古墳周溝)

伊勢国分寺跡28次調査

国分町字堂跡

広範囲のトレンチ（調査溝）にもかかわらず現在のところ塔の痕跡は発見できていません。

先月トレンチ調査によって確認された、伽藍地南東隅の掘立柱建物を面的に掘りました。性格は不明ですが、規模と配置から見て重要な施設とみられます。併せて東辺・南辺築地の基底部も確認しました。これによって国分寺の規模がさらに明確になります。

金堂東方の調査区では、伽藍地内を区画する築地の基底とみられる2条の溝が「T」字状に交わっている状況が明らかになってきました。さらに遺構検出を続けます。



大型の掘立柱建物



伽藍地内を区画する築地？

天王遺跡第9次調査

岸岡町(鈴鹿厚生病院内)

調査はほぼ完了し、検出された建物は8棟になりました。現在、中世の大型の井戸を掘り下げており、井戸枠のほか木製品や墨書土器など多くの遺物が出土しています。

病院内の別地区で新たに10次調査に着手します。



調査区全景



井戸

[TOPに戻る](#)

[過去のニュース収蔵庫](#) [現地説明会資料収蔵庫](#)

[ホームページに戻る](#)

発掘ニュース

平成14年度 [4月](#) [5月](#) [6月](#) [7月](#) [8月](#) [9月](#) [10月](#) [11月](#) [12月](#) [1月](#) [2月](#) 3月

9/5更新

伊勢国府跡(長者屋敷遺跡)第16次調査

これまでに6箇所の調査区で作業を終了しました。国府に関連があると考えられる遺構としては6AKG-B区で、ほぼ正方位に並ぶ掘立柱建物の柱穴を検出しました。

それ以外の遺構として、6AKI-B区縄文時代晩期～弥生時代前期の土器棺墓群という興味深い遺構が確認されました。



掘立柱建物



土器棺墓

伊勢国分寺跡28次調査

8月中は塔を探すために、他国の国分寺跡の例を参考にしながら広範囲にトレンチ（調査溝）を入れました。それにもかかわらず現在のところ基礎地形や外周溝らしき痕跡は発見できていません。さらに確認調査を続ける予定です。

トレンチ調査の成果としては、伽藍地南東隅に設定したトレンチによって、国分寺の運宮に関連するとみられる掘立柱建物の存在が確認できました。柱間10尺(3m)で5間×2間、南に庇を持ったかなり規模の大きな建物です。



広い範囲に設定したトレンチ



検出された掘立柱建物

天王遺跡第9次調査

病院改築に伴う発掘調査です。遺構の検出作業が引き続き行われて、検出された建物は6棟になります。建物は7世紀代とみられ、企画的に配置されており、2期以上の変遷が考えられます。

調査区を横切る中世の溝からは赤色顔料が付着した擦石（石杵?）など興味深い遺物も出土しています。



掘立柱建物倉庫



井戸

須賀遺跡調査

調査区は須賀の集落が位置する低位段丘から南東に外れた低地です。福祉施設建設に伴う調査です。建物の工法と遺構保護の関係から、1m四方のグリッドを50箇所ほど開ける方式の調査のため遺構の性格はつかみにくいのですが、弥生時代後期を中心にまとまった遺物が出土しています。



調査区の様子



弥生土器の出土状況

伊勢国府跡(長者屋敷遺跡) 第17次調査

遺跡の北辺部、金藪の東側での調査です。農地改良工事の際に遺構が発見され、一時工事を中断していただいて調査に入りました。西半分の緊急調査を終了し、国府と平行する時期と見られる竪穴住居が4棟、東西方向の区画溝などが検出されました。

10月以降に改めて残りの東半分を含めた本格的な調査を行う予定です。



竪穴住居(カマド)



区画溝

[TOPに戻る](#)

[ホームページに戻る](#)

発掘ニュース

平成14年度 [4月](#) [5月](#) [6月](#) [7月](#) [8月](#) [9月](#) [10月](#) [11月](#) [12月](#) [1月](#) [2月](#) 3月

8/5更新

伊勢国府跡(長者屋敷遺跡)第15次調査

ほぼ調査は終了しました。政庁正面に設けたトレンチ状の調査区でもはっきりした遺構は見つからず、残念ながら政庁から南に伸びる道路の確認という当初の目的は果たせませんでした。あとは現場の埋め戻しを待つばかりです。7月14日(日)の現地説明会には約65名の方の参加がありました。

現地説明会資料は[こちら](#)(PDFファイル333KB)

閲覧にはAdobe社のAcrobat Readerが必要です。



現地説明会



政庁正面の調査区(画面左に政庁)

伊勢国分寺跡28次調査

塔跡推定地の調査では、グリッドを繋げて大きな調査区としました。約3mの間隔をおいて東西の溝が2条並行しているのが見つかり、塔の外周を囲む築地ではないかと推定して調査を続行しています。塔の基壇はもう少し南側の可能性が高くなりましたので、8月中に新たな調査区を設けて追跡を続ける予定です。

南門跡は、7月21日に現地説明会を開催し、こちらも猛暑の中45名の参加者がありました。こちらの調査区はすでに埋め戻しに入っています。

現地説明会資料は[こちら](#)(PDFファイル510KB)

閲覧にはAdobe社のAcrobat Readerが必要です。



南門の現地説明会



博物館から望む塔推定地調査区

天王遺跡第9次調査

鈴鹿厚生病院の立替に伴う発掘調査です。今回は平成11年に実施した第6次調査区に隣接する病棟と病棟の間の調査です。前回の調査でも大形の掘立柱建物が確認されていますが、今回もさらに多数の建物の柱穴が検出され始めています。

発掘ニュース

平成14年度 [4月](#) [5月](#) [6月](#) [7月](#) [8月](#) [9月](#) [10月](#) [11月](#) [12月](#) [1月](#) [2月](#) 3月

7/5更新

伊勢国府跡(長者屋敷遺跡)第15次調査

さらに政庁よりに2個所の調査区を新たに開け調査を進めています。

現在までに幾つか検出されている南北溝が国府に関連する道路や地割に関するものかどうかは、調査指導委員会の判断を待ちたいと思います。

なお、南側6AJJ-D区で検出されていた円墳の中心部に見つかった土坑から、ガラスの小玉が出土しこの古墳の主体部である可能性が高まりました。周溝からは土師器の小壺も出土し5世紀末から6世紀前半頃の古墳と見られます。

7月14日(日)にこれらの成果をまとめて、現地説明会を開催する予定です。



古墳の主体部



ガラス小玉の出土

伊勢国分寺跡28次調査

塔跡推定地の調査では、3×12mのグリッドを次々と開けています。南北または東西の溝がいくつも見つかってきて、塔の外周を囲む施設の可能性が高いとみられます。しかし、中・近世や、近・現代の溝と複雑に重なり合っているため調査がはかどっていません。

南門跡はほぼ調査が終了したため、ラジコンヘリを使って写真撮影を行いました。準備のための清掃の際、SK0148と呼ぶ瓦廃棄土坑の上部で樹木の植え替えに伴って攪乱された部分を掘り除いていたら、なんと鬼瓦の破片が見つかりました。この南門跡についても、近日中に現地説明会を行いたいと考えています。



南門出土の鬼瓦(前歯と牙の部分)



ラジコンヘリによる撮影。

[TOPに戻る](#)

[過去のニュース収蔵庫](#) [現地説明会資料収蔵庫](#)

[ホームページに戻る](#)

発掘ニュース

平成14年度 [4月](#) [5月](#) [6月](#) [7月](#) [8月](#) [9月](#) [10月](#) [11月](#) [12月](#) [1月](#) [2月](#) 3月

6/5更新

伊勢国府跡(長者屋敷遺跡)第15次調査

伊勢国府跡の朱雀路を検出するため、2箇所の調査区で発掘作業を進めています。いくつかの南北方向の地割溝は見つかっていますが、道路と認められるまでには至っていません。

調査の目的とは若干ずれますが、南側の6AJJ-D調査区では古墳(円墳1基)の周溝と弥生時代中期～後期の竪穴住居や土坑数基が見つかっています。



6ALC-D区の遺構検出状況



6AJJ-D区の遺構検出状況

伊勢国分寺跡28次

鈴鹿市国分町字堂跡・西高木

南門跡の発掘作業はほぼ終了し、記録作業を残すのみとなりました。表土を取り除くとすぐに現れた大量の瓦溜りは、下側からビニールが出てきて新しく耕地整理された際のもものと判明しました。結局、確実な遺構は基壇の周りをめぐる外周溝が残るのみでした。ただし、基壇のふちに足場穴の可能性のあるピットが検出されたのが大きな成果といえるでしょう。

塔跡推定地の調査も始まっています。今までの伽藍とは違って位置の手がかりが全く無いため、3×12mのグリッドを市松状に配置し次々と開けています。並行する2条の南北溝が確認され、陸奥国分寺のような塔廊があったのでは？と期待は膨らむ一方ですが、何しろ塔の基壇が見つからないことにはお話になりません。



南門の瓦溜り



南門北西部掘りあがり



塔跡調査区作業風景



新型式の軒平瓦も出ました

[TOPに戻る](#)

[過去のニュース収蔵庫](#) [現地説明会資料収蔵庫](#)

[ホームページに戻る](#)

発掘ニュース

平成14年度 [4月](#) [5月](#) [6月](#) [7月](#) [8月](#) [9月](#) [10月](#) [11月](#) [12月](#) [1月](#) [2月](#) 3月

5/7更新

伊勢国府跡(長者屋敷遺跡)第15次調査

4月24日から調査を始めました。今年度は、新たに政庁南方で国府関連遺構の存在を確かめます。遺物の散布(特に瓦)からあまり遺構がなさそうだと考えられてきた南方域ですが、他国の国府の例をみれば、政庁の南側に国府域が広がっていると思われます。まず、政庁の正面延長線上で朱雀路にあたる道路遺構が存在するか否かを確認します。



6ALC-D区から北に政庁を望む



6AJJ-D区で見つかった南北溝

伊勢国分寺跡28次

鈴鹿市国分町字堂跡・西高木

連休明けから調査に入る予定です。まず、昨年度末におおよその遺構検出までを追えて中断していた南門の調査から再開します。

その後、塔と僧坊へと調査を進めて、今次の調査でおおよその伽藍配置と規模を確定してしまいたいと考えています。



南門調査区



このあたりに塔が

[TOPに戻る](#)

[過去のニュース収蔵庫](#) [現地説明会資料収蔵庫](#)

[ホームページに戻る](#)